Awara News

あわらニュース vol.60

平成28年4月1日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。

新しい春に

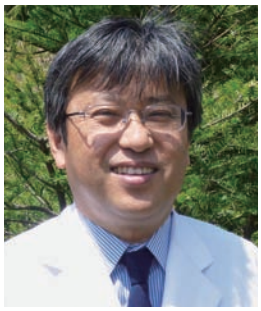
小児科医長　**大坂 陽子**

2016年の春です。新年度が始まりました。

あわら病院が提供する医療の3本柱は「長寿、血液・免疫、障がい者」ですが、患者さんの中には入院中に卒業や入学といった人生のイベントを迎え、病棟プレイルームでの式典に臨まれる方もいらっしゃいます。我々、病院のスタッフも、主役の生徒さんやご家族、学校の先生とともに、皆さんの成長を感じ笑顔を交わして幸せな気持ちになれる日です。春の訪れが皆さんの笑顔も運んできてくれました。そして、新しい職員も入ってきました。新年度、春の芽吹きのように、ますます伸びていくあわら病院でありたいと思います。

上の写真は、先日開催しました、地域包括ケアに関わる多職種研修「ワールドカフェ」の様子です。参加者はそれぞれの職種の立場から意見を述べ、問題点を共有して、改めて連携や情報共有の重要性を再認識していました。

多くの笑顔のために



院　長
津谷　寛

春の光が動き始めるなか病院全体が桜色で覆われる頃となり、今年も多くのフレッシュな人材を迎えて新年度を迎えることができました。昨年度、あわら病院では国立病院機構本部の承認を得て念願の訪問看護ステーション（「アイリス」）を開設し、あらたな診療体系を築く年となりました。一方、特定独立行政法人から一般独立行政法人への移行が行われ、経営の自立のためにより効率的な運営が要求されるようになった年でもありました。医療制度の変化が激しいなか一年間を過ごすことができましたことに関しまして、地域住民および医療福祉関係者の皆さまの日頃からのご支持、ご協力のおかげであり改めて感謝申し上げます。

当院は「地域に求められる専門医療の提供」を使命として、患者・利用者のかたの生活の場がみえるところで、重症心身障がい児（者）医療、難病（血液・免疫・神経）医療、長寿医療を柱とした専門医療の充実を図ってきています。いわゆる「2025年問題」に対応する地域医療構想では、急性期病院における医療の効率性を高め、一方では在宅医療への移行を促す施策が進められていますが、当院でも平成23年度から「在宅療養支援の充実」を目標にかかげ、他の医療機関や福祉施設と協力し地域医療福祉ネットワーク作りに励んできているところです。今年度は訪問看護ステーションを得てようやくそろった院内体制を駆使して、「住み慣れた地域での良質な専門医療」を目指して、自分たちの特色を生かした医療サービスの提供に励み、地域での信頼を高め、より一層、地域医療への貢献を果たしていきたいと考えております。

近未来に待ち受けるのは決して小さい変化ではありませんが、「多くの笑顔」のために私たちはこれからも専門医療、教育、そして研究をしっかり担えるように不断の努力を行ってまいりたいと考えております。本年度も職員一同、変わらぬ情熱をもって進み続けていきますので、よろしくお願い申し上げます。

重症心身障がい児（者）について

診療部長　川満　徹

重症心身障がい児（者）とは、重度の知的発達障害と肢体不自由を併せ持つ方たちの事で、その原因となる疾患の発症や契機は、発達の一応の完成をみる18歳までに起きます。つまり発達途上の段階で何らかの原因が起きた為に、発達が阻害されその後の発達の進み方が遅くなったり場合によっては退行（後戻り）してしまった一つの結果を表したものと言えます。

その原因となるものは先天性の疾患や周産期異常に基づくものもありますし、後天性の原因としては脳炎・髄膜炎、脳へ大きな損傷をもたらす事故などがその代表的なものとして挙げられます。

障害の程度や現れる症状もまた多岐に渡ります。知的発達の面で言うと、全く意志疎通の図れない重い方もいれば、ある程度の言語的コミュニケーションが可能な方もいます。身体的にも全く随意的な運動が不可能な患者さんから歩行可能な方までいらっしゃいます。

この様に原因も病状も様々ですが、便秘症やてんかん、骨や筋肉の衰えなど、共通して認められる事の多い問題点もあります。

基礎にある障害の問題に加え色々な合併症を発生し易いこれらの患者さん達に対して、病状の悪化を可能な限り防ぎながら、また少しでも快適な毎日を過ごしてもらえる様にという視点で、重症心身障がい児（者）病棟のスタッフは日々取り組んでいます。

地域医療連携施設のご紹介

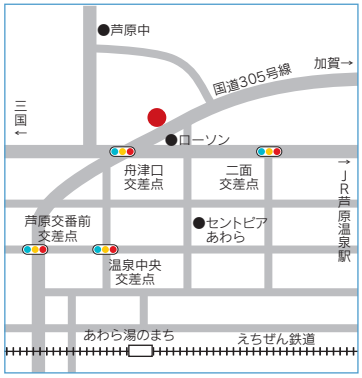
あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

齊藤歯科医院

昭和57年に現在地で開院して34年が経ちました。国立療養所北潟病院の時代から小児科の先生方と連携し重心病棟に入院の患者さんへの歯科疾患対応を行ってまいりました。現在は一般病棟入院の皆さんへの訪問診療もルーチン業務にしております。近年、「高齢化の進展」が負のイメージで捉えられておりますが、歯・口腔の健康が保たれ、口から食べられれば豊かな健康寿命を満喫できます。

これから益々あわら病院と緊密な連携をとり、地域に根ざした温かみの感じられる医療体制をスタッフともども目指して参りますのでよろしくお願いいたします。

院長　齊藤 愛夫



診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	備　考
歯　科	9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	休診:日曜・祝日 木曜午後 ※1:第2、第4土曜 午後は、休診
	14:30～18:00	○	○	○	×	○	※1	

齊藤歯科医院
〒910-4105　福井県あわら市舟津9-39　TEL 0776-78-7337

「ふくい重症心身障がい児(者)の療育と医療を考える会」に参加して

4階病棟
副看護師長　藤井 幸雄

暖冬とはいえ1年で1番寒い1月下旬に、県内の重症心身障害児(者)(以下重心児とする)のケアに従事する医療、療育、教育、行政から院内外あわせて71名の方に参加いただき、本会を開催しました。重心児に特化する研修会は稀少で、日々抱える課題も多い私達にとって、多職種が一同に会するこのようなものは、非常に有意義なものとなりました。

基調講演では、福井県立大学准教授の吉川先生より「本人主体の支援を考える」についてご講演いただきました。お人柄がにじみ出る気さくな語りでした。内容はケアの選択の主体は利用者であるという大前提を再認識するものでした。フロアからは、「重心児はその特徴により尚一層主体者の希望を把握することが難しく、どう取り組んだらよいか」という問題提起もありました。永遠に考え続けなければならない事だけに、今後も本会のような集まりを継続し皆でディスカッションして行けたら良いと思いました。続いて私の方から「当院における在宅者へのサービスの現状と今後の課題」について話させて頂きました。この発表の準備過程で当院のような医療型入所施設が県内に3か所しかない事を知り、自分たちの役割の大きさに誇りを持ち、そして少しでも利用者から使いたいと言ってもらえるよう努力していこうと思います。

研修後の会場では参加者が交流を持っていました。また重心児病棟の見学をしていただき、直接私達の方から当院の療養環境を説明させていただきました。本会が福井の重心児ケア者の顔の見える関係性を作る場となる良い機会になったのではないかと思います。このような交流を持つことに意義があり、今後も継続出来たらと思いました。

外来担当医表

（平成28年4月1日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷	鈴木	大槻	見附	向井
	小児科	大坂＊	川満＊	大坂＊	大坂＊	川満＊
専門	リウマチ			津谷	津谷	
	血液・腫瘍			浦崎＊	大槻(第2･4)	
	痛風				津谷＊	
	生活習慣病			鈴木(第1･3)		
	老年			桐場(第2･4･5)		粟田
	神経			林(第1･3･5)		
	循環器	見附	見附			
	外科	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤	齊藤
	整形外科	髙田				
	眼科				吉岡＊	
	皮膚科		若原			若原
	地域ケア					桐場
	禁煙外来	見附	見附			

● 受付時間8:30～11:30　● 黄色枠は予約制　● ＊印は午後診察　● 休診日／土･日･祝日･年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日･金曜日の午前中（9:00～11:00）です。

※神経内科の診察は、第1･3･5水曜日（8:30～11:30）です。　※専門内科の午後診察は、14:00～16:00です。

※禁煙外来の診察は、月曜日（8:30～11:30）･火曜日（10:00～12:30）です。

あわら病院における医療安全管理体制について

医療安全管理係長　**山口栄子**

良質な医療を提供する体制の確立を図ることを目的として、平成18年に医療法･薬事法の一部が改訂され、診療報酬上で「医療安全対策加算」が新設されました。その取得のための要件には、①医療安全部門の設置 ②医療安全管理部門の業務指針および医療安全管理者の具体的な業務内容が整備されている　③医療安全管理部門に診療部門、薬剤部門、看護部門、事務部門などすべての部門で専任の職員が配置されている ④医療安全管理者が、医療安全管理対策委員会と連携し、より実効性のある医療安全対策を実施できる体勢が整備されていること等です。

国立病院機構の一医療機関である当院は、機構内では比較的小規模の病院ですが、機構本部が作成しております「医療安全管理のための指針」をもとに「あわら病院における医療安全管理のための指針」を作成し、医療安全管理体制に努めています。指針は、外来待合室、各病棟の入り口にて開示しておりますのでご覧ください。

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1　TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉TEL.79-1212内線（785）FAX.0776-79-1261

URL http://www.awara-hosp.jp/

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液･腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（5km）

①京福バス（北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

JR北陸本線芦原温泉駅より（10km）

①京福バス（あわら湯の町駅で乗換）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、またはホームページ（交通案内）をご覧ください。